Movie Review　44　＃大いなる遺産

『＃大いなる遺産』(2012 年:マイク・ニューウェル監督) を amazon prime video で視聴した。本作は英国の文豪チャールズ・ディケンズの『大いなる遺産』（ Great Expectations）の映画化。1861 年作の『大いなる遺産（上）（下)』を読みながらの視聴となった（読むのが大変でなかなか大変で進捗しないため)。本書は主人公がその少年時代から青春時代を回想のうちに語るという長編小説で、自伝的な形式を用いている。孤児のピップが、謎の恩人からの莫大な遺産を相続し、紳士として成長していく過程で、愛や人間関係、そして真の幸福とは何かを学ぶ物語である。

物語は、19 世紀、産業革命真っ只中の英国が舞台。急速な都市化と経済格差が進み、貧困層と富裕層の対立が顕著になっていく。英国の田舎町で、姉夫婦と貧しい暮らしを送る孤児のピップが、脱獄囚 M と出会い、脅かされて食料を与えることから始まる。その後、ピップはミステリアスなミス H の屋敷に招かれ、養女の E に恋をする。鍛冶屋の修行をしていたピップのもとに、ある日、莫大な遺産の相続人になったという知らせが届く（500 ポンドは膨大なのだろうか)。紳士になるためロンドンへ向かったピップは、遺産がミス H によるものと信じ、E との結婚を夢見るが、様々な出来事が彼を待ち受けていた。中盤で実際の恩人は幼年期に助けた M であることが判明し、ピップは衝撃を受ける。E は別の男性と結婚し、ピップは失望と自己反省を経て成長する。最終章では、ピップと E が再会し、静かに歩む姿が描かれる。

単なる「成功物語」ではなく、挫折後にこそ見えてくる真の人間性と成熟を描いている。主人公の旅は、詠む者の内面の旅とも重なり、共感を呼び起こす。ただ、19 世紀が舞台なので、21 世紀に生きる者には状況設定が違い過ぎて、リアリティに欠けるかもしれない（指名手配となっている囚人がどうやって大金を稼ぐのかと一宿一飯の恩に大金を譲る設定は非現現実的な気もするが・・・)。
評価：★★★☆☆